

コスガ工務店様の所沢新築住宅を見学しました



【屋根断熱施工の様子】

株式会社小菅工務店様(東京都西東京市、小菅満治代表取締役)が埼玉県所沢市で建築中の木造2階建て住宅を見学させていただきました。

同住宅では、屋根にシュタイコ木繊維断熱材「プロテクト」および付加断熱用シュタイコ木繊維断熱材「フレックス 038」、壁にシュタイコ木繊維断熱材「フレックス 038」を採用しています。同社ではかねて、本物の木材をはじめ、環境に適合した建築資材を積極的に取り入れており、木繊維断熱材についても欧州視察の際に現地を見て、ぜひ取り入れてみたいと考えていたそうです。

木繊維断熱材を住宅に採用するのは今回が初めてで、施工前に先行してシュタイコ木繊維断熱材を取り入れて施工中の弊社お取引先様の建築現場も見させていただきました。木繊維断熱材の使用面積は屋根が 50 m²強、壁が 130 m²強、あわせてウルト社の可変透湿防水シート屋根用透湿防水シートなども採用していただきました。



【ウルト社の可変調湿シート】

屋根断熱施工では、仮支えを設置し、上棟後、屋根から下へフレックス 038 およびプロテクトを順次設置し、短時間での施工が実現しました。壁面の断熱もフレックス 038 を押し込むだけです。比較的短期に工事が完了しました。フレックス 038 のカット端材も隙間等の充填に使用しています。また、柱材は天竜産杉 KD105 ミリ角を全面採用しています。この物件は国産材をふんだんに使用するとの考えに基づいたものです。内装仕上げでは DIY の要素を取り入れ、透湿性に優れた天然漆喰を採用する予定です。



【柱角は天竜産杉 KD105 ミリ角を使用】

住宅は今夏、竣工の予定です。屋根および壁にシュタイコ木繊維断熱材の施工を終えた2階は、快適な温熱環境となっています。夏本番を迎え、熱容量が大きなシュタイコ木繊維断熱材が厳しい外気温の侵入を遮り、室内温度の上昇が抑制されます。

小菅代表取締役も、「シュタイコを選んだのは、第一に熱容量の大きさが夏の暑さに効果的なこと、第二に特徴ある地場工務店として差別化を目指すうえで、特に環境面を重視しました」と語ります。竣工後も同社で温熱環境測定を行っていく計画です。



【フレックス 038 を付加断熱とした小屋裏】

コスガ工務店様の経営理念は、「ひと、いえ、まちを、輝かせるために」です。

小菅代表取締役は、「弊社は昭和29年に創業し、地元の方々に支えられながら仕事をしています。これまでに、たくさんの建て主さんや地域の方々との出会いがありました。父の代からはじめた家づくり、その当時の職方は今もコスガを支えてくれています。まちを歩くと地域の皆さんに声をかけられます。

他愛も無い会話の中で、家のことを話してくれます。子どもが社会人になった、同居が始まる、雨戸の引きが重くなった、祖父のために小さな棚をつくろうか、全て日常の会話ですが、コスガはそんな日常がとっても大切だと考えています。家は、家族をつつみ、まもり、育てます。地域はそんな家族が集まった小さな社会です。コスガはその地域社会の一員として、ひと(住まい手)、いえ(資産)、まち(地域)を輝かせるために、家づくりに邁進します」と述べています。

同社の家づくりは、「地域の家守りに注力」、「昔ながらの職人氣質」「売上重視ではない」、「暮らしを考える」、「DIY 的思考を取り入れる」、「新しいカタチの家づくりを提案する」です。同社のホームページではそれぞれについて、次のように説明しています。

地域の家守りに注力

良い住まいであり続けるためには、その家を手入れして管理する「家守り」が必要です。永い年月の中では、暮らし方に合わせた改築が必要になることもあります。私たちは、心地よく暮らすことを維持するお手伝いである「家守り」を重視しています。

昔ながらの職人氣質

腕のある職人は、仕事にまっすぐに向きあう姿勢を持っています。その根本には自分の技術や仕事ぶりに自信があるからです。考えを曲げない頑固者の一面もありますが、それだけ仕事に対して信念を持っているからです。

売上重視ではない

私たちの目的は売上を追求することではありません。目前の売上を達成することより、より先まで見通した目的や社会的意義を達成することが重要です。私たちは、人口減少やストック社会に求められる新しい工務店像を目指しています。

暮らしを考える

家は、住まい手が「描く暮らし」が結果として「カタチ」になるものです。よく使われる「OLDK」という表現だけでは、その家の価値を測ることはできません。新築もリフォームもリノベーションも、暮らし方を考えることから始めなければいけません。

DIY 的思考を取り入れる

自分が楽しめるコトを、遊び心を持って実践する。何かをしてみて、想定外のドキドキを楽しむ。そんな心の動きを味わうことが DIY の本質です。壁に 1 本のフックを取り付けるだけでもいいのです。少しずつ手を加えることで、家は、ご家族にとって「暮らしのカタチ」となっていくはずです。

新しいカタチの家づくりを提案する

暮らしをベースに、DIY 的思考を取り入れた家づくりを行います。インテリアや造作材、間仕切りなどを全て外し、基礎や外壁などの法的に絡むところはプロがきっちり工事する。あとは、住まい手が住みながら少しずつ DIY で作っていく。誰もがこのスタイルを受け入れられるとは限りませんが、いまの時代であれば、共感する人は少なくないと思います。



【コスガ工務店様のカスタマイズ住宅 しんがる+。ざっくり、しっかり、しんがるに、をコンセプトとした木造住宅プラン】

コスガ工務店様は「Nishitokyo CRAFT BASE」も運営しており、木製家具等のワークショップを開催しています。また、季刊で「コスガ工務店新聞」を発行しています。



【シュタイコ木繊維断熱材プロテクト荷揚げの様子】